

避難マニュアル [地震編]



避難マニュアル [地震編]

本マニュアルは、駒場小空間に影響する、地震が発生した場合、またはその発生が予想される場合において、使用者および外部の観客等の安全を守るための手引きを示したものである。駒場小空間の使用に際して、使用責任者は必ず使用前に本マニュアル及び、別紙火災マニュアルを確認の上、必要に応じて構成員にも情報共有を行うこと。

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 事前準備として | 5. ③総務部への連絡 |
| 2. 地震発生時三原則 | 6. フローチャート（公演時） |
| 3. ①速やかな避難 | 7. 避難設計 |
| 4. ②駒場小空間の施錠 | |

1. 事前準備として

使用責任者は非常時に備えた事前準備を必ず行うこと

- 舞台図の作成にあたり、舞台責任者とともに非常時の避難導線を想定すること
→模範例を7に示す。
- 使用期間中の避難訓練の実施を推奨する
- 教養学部より発表されている「駒場 I キャンパス防災マニュアル」を事前に確認すること
(本マニュアルは上のものに準拠する)

2. 地震発生時三原則

①速やかな避難

②多目的ホールの施錠

③総務部へ連絡

3. ①速やかな避難

①-1 初期対応

■安全の確保

- ・『グラッ』ときたらクッションや鞆等で頭部の安全を確保する
- ・揺れている間は動かない

■公演等の中止

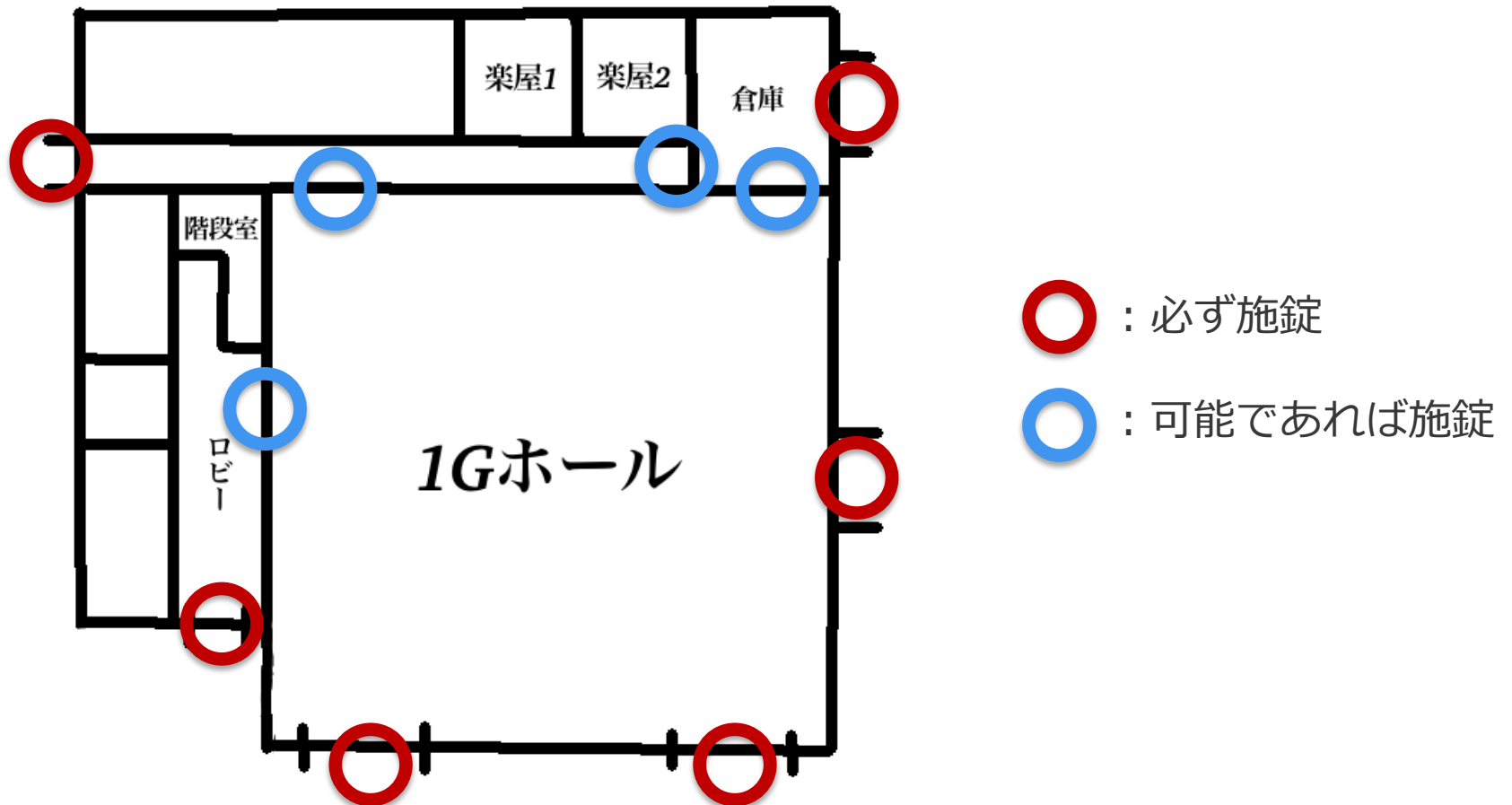
- ・被害発生の恐れがある場合、公演、練習等は中止する

①-2 避難

- ホール内の全員を安全な場所に避難させる
 - 揺れがおさまり次第、駒場図書館前の広場に避難する
 - 使用責任者は次項に記す施錠を行う
 - 安全が確認されるまでは施設内に立ち入らない
 - →必ず貴重品等荷物を持って避難する

4. ②駒場小空間の施錠

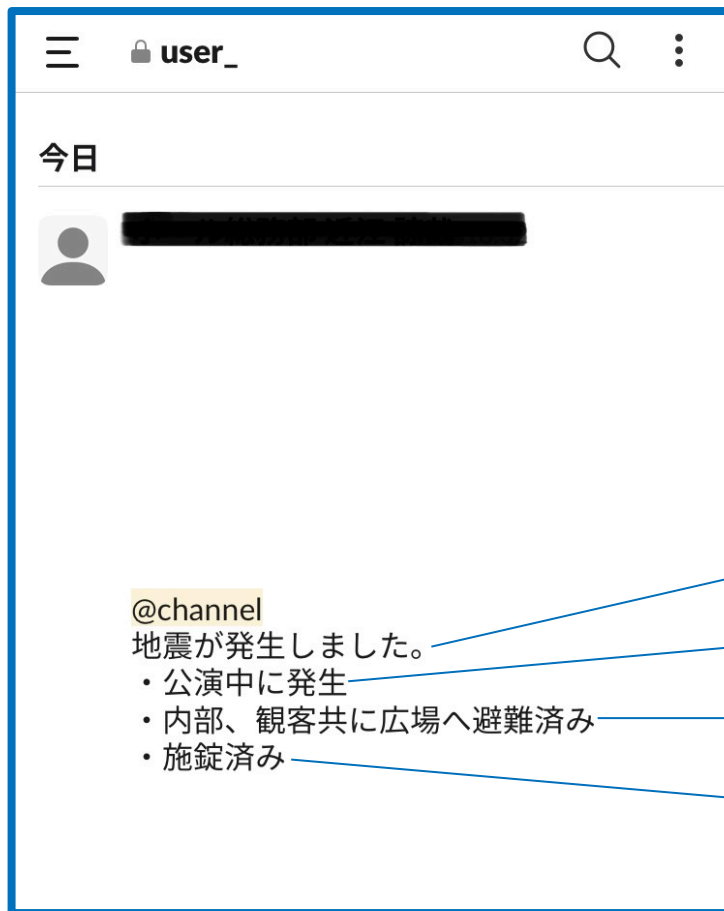
安全確認前の再入館、また外部者の立ち入りを防ぐために使用責任者は駒場小空間の施錠を行う



- 再入館する際は照明責任者によるネジチェックを1G解錠の前に必ず行う
- ネジチェックが完了し、1Gを解錠する際には舞台責任者が構造物の状態を必ず確認し、安全が確保され次第、使用を再開すること

5. ③総務部への連絡

施錠完了後、使用責任者は速やかに多目的ホール総務部に連絡する



連絡は駒場小空間user slackで行う

@channelをつけて全体にメンション

1. 発生時の状況

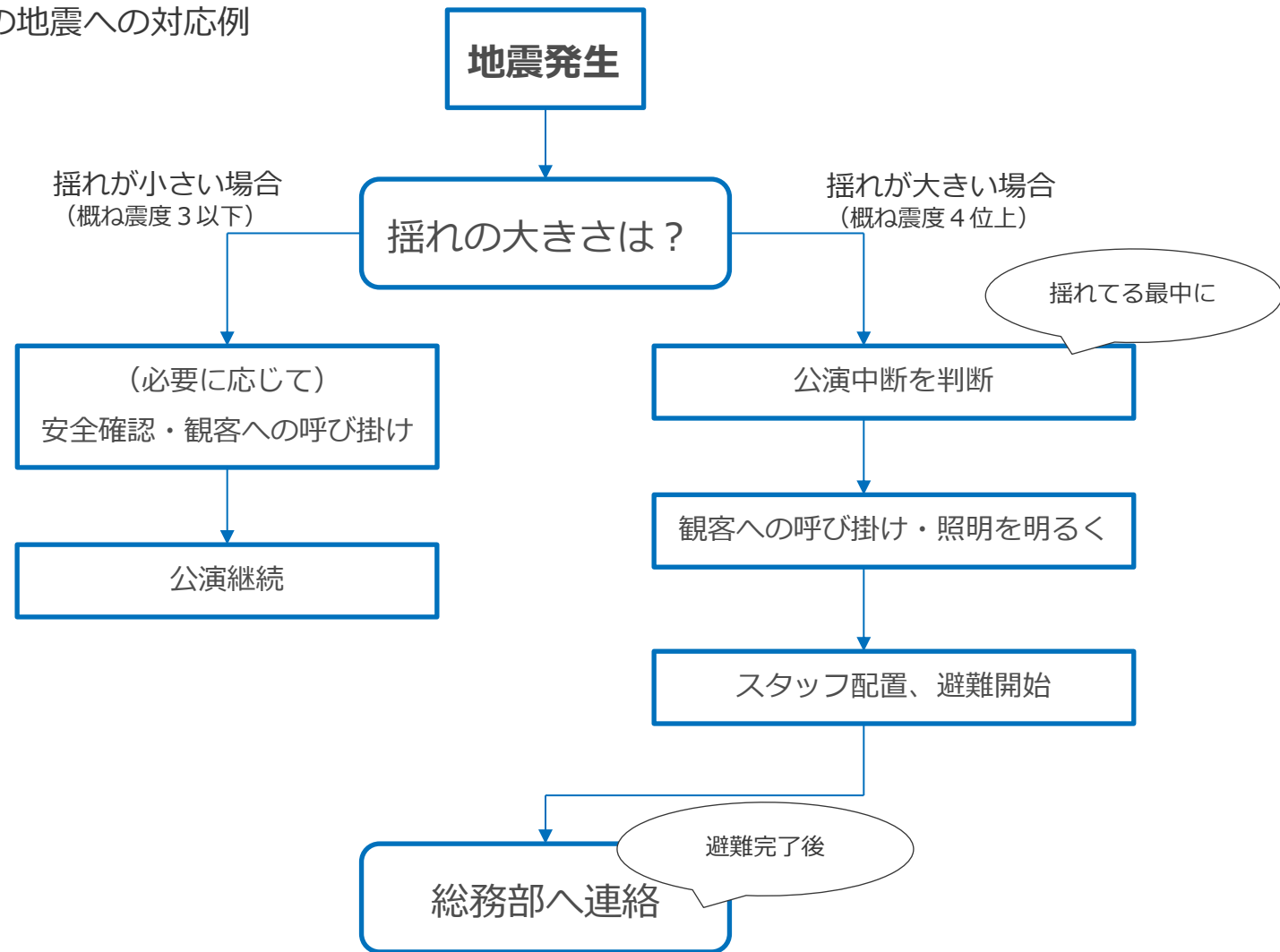
2. 現在の状況

3. 施錠の確認

の3点を必ず連絡する

6. フローチャート（公演時）

参考として公演時の地震への対応例
を紹介する

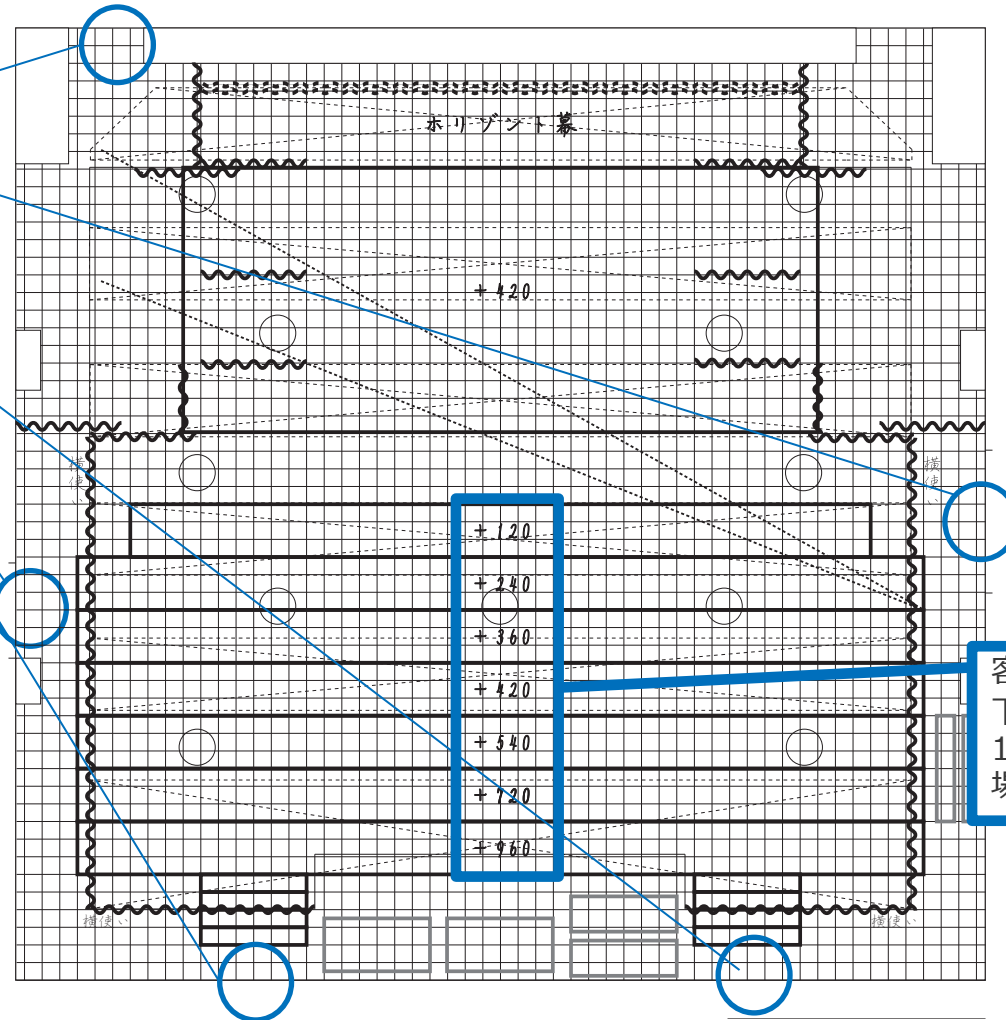


7. 避難設計

舞台責任者は以下を参考に非常時を
想定した設計を行うこと

避難口は3カ所以上設ける
(倉庫は含めない)

客席上には通路を設け、
そこには椅子を設置しない



客席の段差は300ミリ以下とし、高くなる場合には
1*3ステップ等を使い、足
場を増設する